２．南湖公園等を取り巻く環境の変化

（1） 南湖公園及びその周辺地域の環境変化

南湖公園の上流に位置する新白河地区周辺（16 ページの図における国道２９４号以西の地区周辺をいう。以下同じ）は、高度経済成長に伴うモータリゼーションの進展や昭和 57 年の東北新幹線新白河駅の開業を皮切りに、白河西郷土地区画整理事業（平成 4 年完了）やニュータウン等宅地開発、国道 289 号白河バイパス主要区間開通（平成 6 年）、郊外型大規模商業施設のオープンなどの市街化が急激に進み、南湖公園を取り巻く環境は大きく変化した。

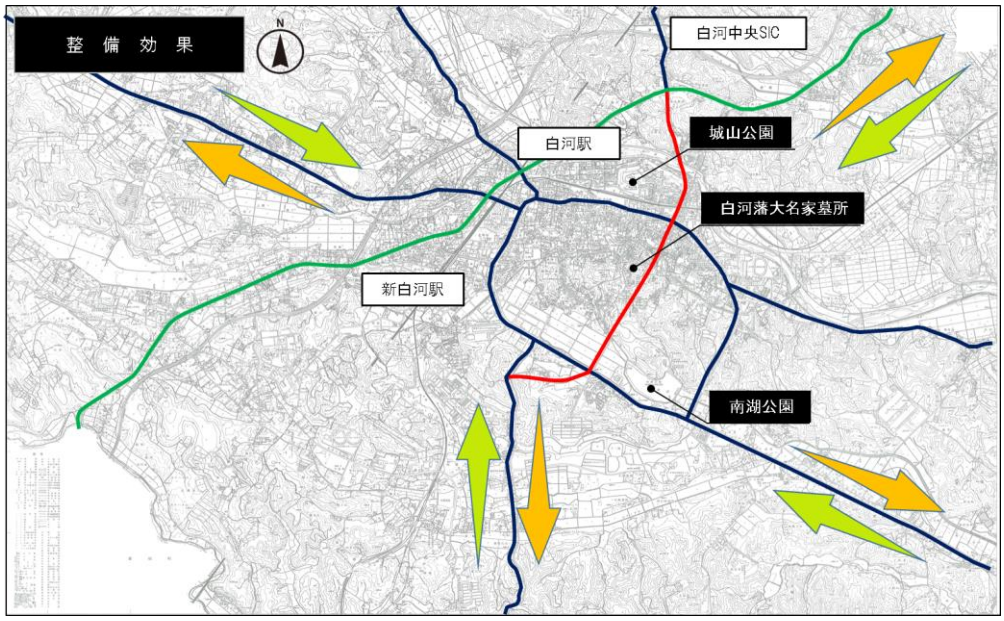
このような周辺環境の変化により、湖水環境や公園風景への影響、那須連峰や関山を望む良好な景観の阻害、公園内通行車両の増加による歩行者の安全確保など様々な問題が生じた。

現在でも南湖公園周辺では開発による都市化が進み、また、事業が進められている都市計画道路白河中央線（この計画書において「国道 294 号白河バイパス」という。）の整備により、沿線開発の進行や国道 289 号をはじめとした交通量の増加など、さらなる環境の変化が予想されるものである。

（2） 国道 294 号白河バイパスの整備による期待される効果

現在整備が進められている国道 294 号白河バイパスは、本市の道路網の骨格をなし、南北の軸となる路線である。

この道路の整備により、東北自動車道白河中央スマートインターチェンジや国道 4 号といった広域交通施設、小峰城や白河藩大名家墓所、南湖公園が一つの線で結ばれ、市内回遊性の向上が図られることから、交流人口の増加が期待される。また、移動利便性の向上による地域経済の活性化、栃木県北部や県南地域との交流促進による地域全体の活性化など、アクセス向上による様々な効果も期待される。

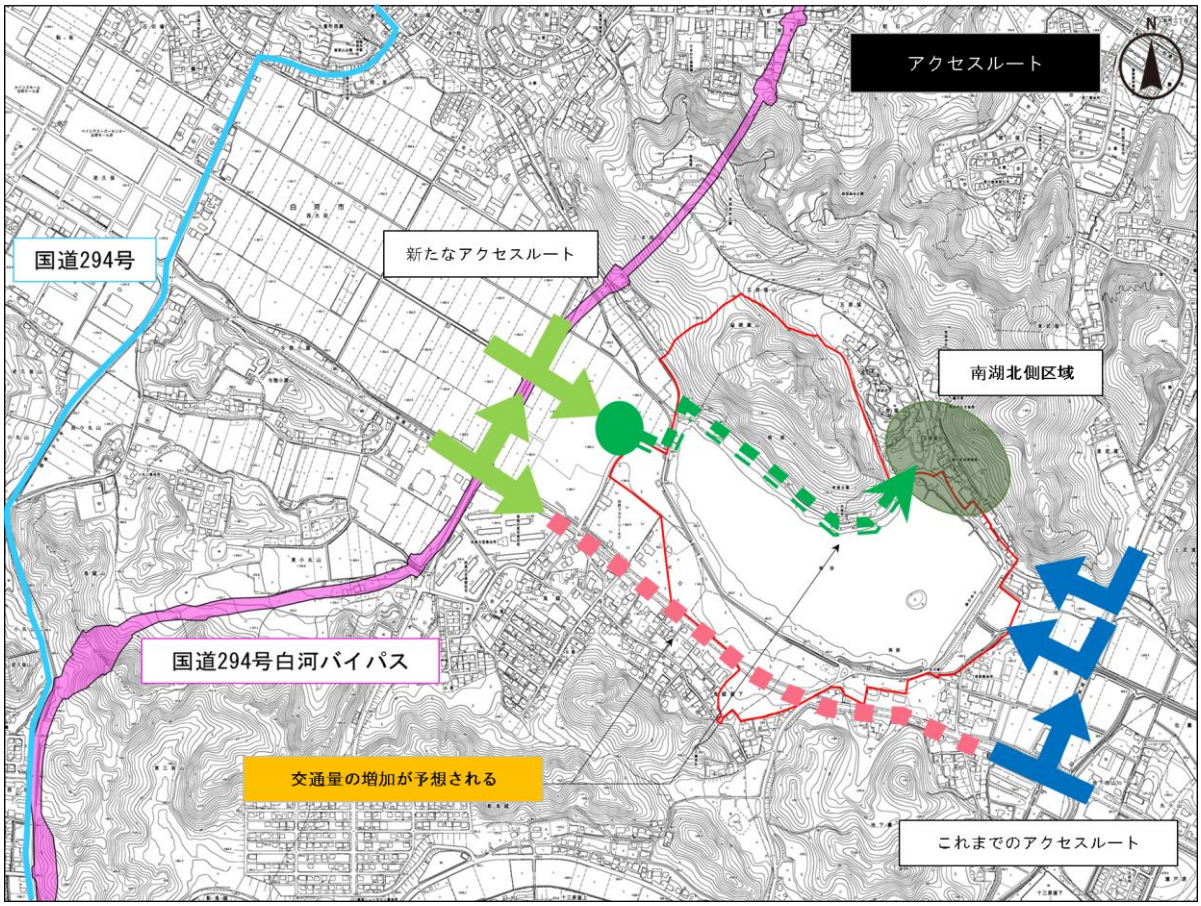


(3)　国道 294 号白河バイパスの整備による交通の変化

これまでは県道南湖公園線、国道 289 号をアクセス道路として、南湖公園の東側が主な玄関口となっていたが、国道 294 号白河バイパスの整備により、西側も南湖公園の新たな玄関口となることが見込まれる。

これにより、史跡名勝区域内の市道南湖線（下図緑点線）を利用し、施設が集積する南湖北側区域（16 ページの図における南湖北側区域をいう。以下同じ。）に向かう車両の増加が見込まれる。また、以前より国道 289 号の南湖公園周辺の区間（下図赤点線）は交通渋滞が著しく、回避を目的として史跡名勝区域内の市道南湖線を利用する車両も多かったことから、国道 294 号白河バイパスの整備に伴う国道 289 号の交通車両のさらなる増加により、市道南湖線の利用圧力が高まることが想定される。

こうした車両の増加は、南湖公園利用者の安全かつ快適な散策を妨げるなど、南湖公園の魅力低下につながることから、優先的に対応していかなければならない。

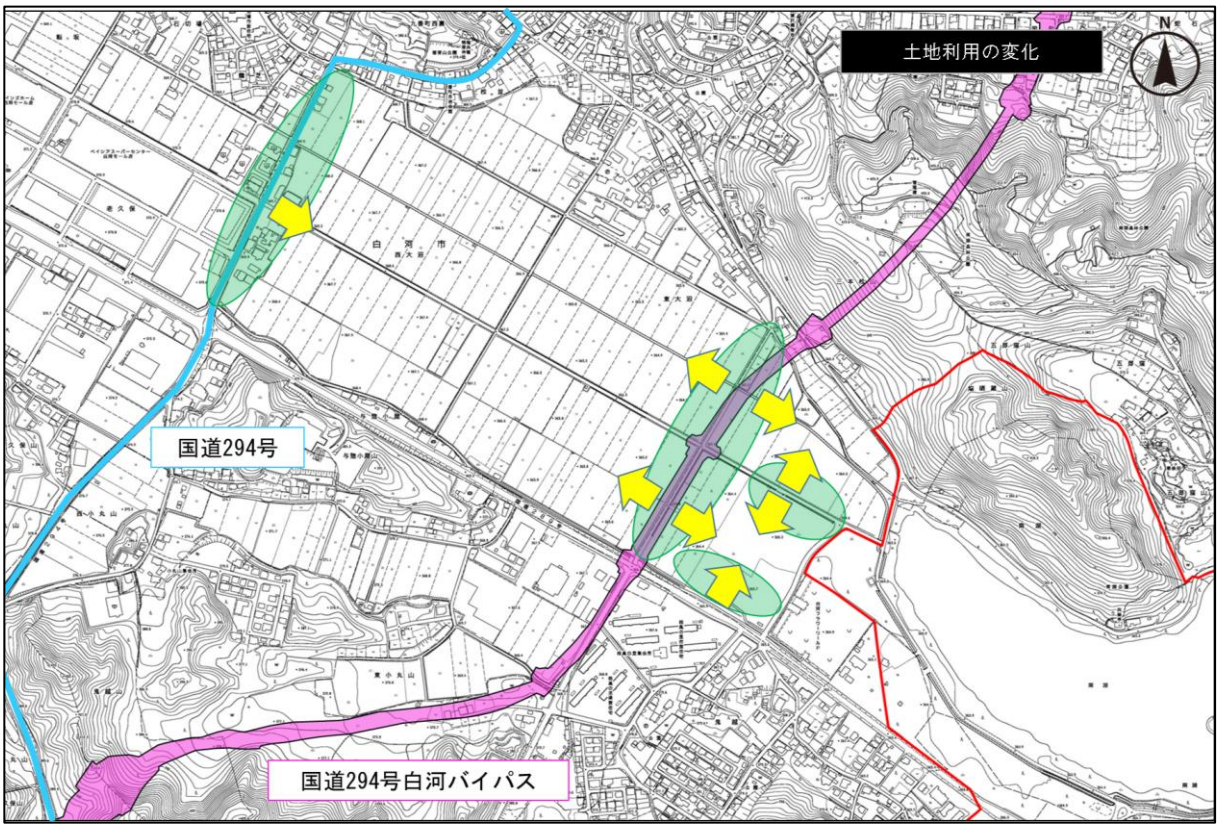


(4)　国道 294 号白河バイパスの整備による土地利用の変化

農地は、国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全、良好な景観の形成などの多面的機能を有し、とりわけ、水田は、雨水を一時的に貯留し、洪水を防ぐなど大きな役割を果たしている。南湖西側区域（16 ページにおける南湖西側区域をいう。以下同じ。）の農地も同様の役割を果たしており、その美しい田園風景は、南湖公園と一体となって市民の心を和ませてきた。

一方、全国的に少子高齢化社会の進行による労働者不足が大きな社会問題となっている中で、農業においても後継者・農業従事者不足の問題が深刻化しているとともに、耕作放棄地や開発を目的とした農地転用などが年々増加傾向にあり、南湖西側区域についても休耕農地が目立ち始めている。また、幹線道路の整備に伴い、その沿線にロードサイド型店舗や郊外型大規模商業施設等が建設され、都市化が無秩序に進行するといったケースも見受けられ、営農環境が悪化していく中においてインフラ整備やその維持が大きな負担となるなど、新たな課題を生んでいる。

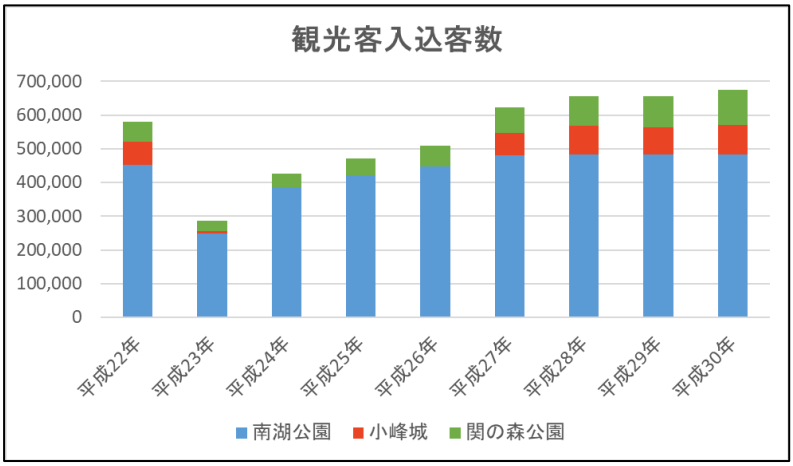
こうした傾向は、本市においても例外ではなく、南湖公園周辺において同様の事例が生じた場合、将来にわたりその影響が続いていくと考えられ、南湖公園の価値を著しく損ねることにつながりかねないことから、国道 294 号白河バイパスの整備に伴う周辺の土地利用の変化について十分に注視しながら適切な方策を検討していく必要がある。



(5)　白河市のシンボルと交流拠点として期待される役割

南湖公園は、築造以来その歴史とともに白河市のシンボルとして、市民等の慈しみと誇りをもって受け継がれ、現在においても変わらず本市の重要な財産となっている。

下表のとおり、南湖公園の観光客は、平成 23 年の東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所事故の影響により大きく減少したものの、近年では回復・増加傾向にあり、平成 30 年では年間約 48 万人の入込となっている。



また、本市では小峰城、白河関、きつねうち温泉をはじめ多くの観光・交流施設が存するが、その中でも南湖公園は、県南地域において最も多くの観光客が訪れる施設となっている。

近年では、少子化や首都圏への人口流出などを背景とした人口減少による地域力の低下が地方における大きな社会問題となっており、将来にわたり豊かな地域社会を維持していくため、本市においても交流人口の増加が重要な政策目標となっている。

こうした中で、南湖公園を市民の宝として、また国の宝としてその魅力をさらに向上させていくことは本市の交流人口の増加だけにとどまらず、県南地域全体に波及し、移住・定住の促進など活気ある地域づくりに寄与するものであり、これまで以上の大きな役割を担うことが期待される。

〔南湖湖畔の様子〕